

樹木・花にまつわる物語

第2回 ショカツサイ 諸葛菜

写真と文 河本義宣

ショカツサイは江戸時代(寛文年間:17世紀)に渡来した中国原産の帰化植物です。中国名「諸葛菜」をそのまま使って音読みしたのが名前になっています。

日本名をオオアラセイトウといい漢字表記は大紫羅欄花で名付け親は牧野富太郎です。アブラナ科。

中国名「諸葛菜」は言うまでもなく諸葛孔明に因んで付けられた名前です。

孔明は宿敵・魏の曹操を打ち破る(北伐)ための遠征軍を発しますが、その前に後顧の憂いを除くため、南征(225年)します。荒ぶれる南蛮の王・孟獲の性格を見抜いていた孔明は、孟獲を七度捉えて七度放ちます。四字熟語「七縦七禽^{しちじゆうしちきん}」の起源。孟獲は七度目に放された時、ついに孔明に心服し、蜀漢への帰順を誓いました。平定後、帰路途中の瀘水にさし掛かったとき、川が氾濫して渡れません。土地の言い伝えでは「蛮人49人の首を切って川の神に供えれば、氾濫は収まる」と言う。孔明は人身御供の悪習を立ち切る機会と捉え、料理番を



町田市恩田川河畔にて(2017年3月12日)

呼んで、小麦粉をこねて丸めた中に羊や豚の肉を入れ、人の頭に見立てものを49個つくらせ、それを川に投げ入れたところ翌日には氾濫も収まり無事帰還しました。この時作った蛮人の頭「蛮頭」が訛って「饅頭」となりました。この故事が饅頭の起源と謂われています。いよいよ、北伐軍の出兵です。出発に先立ち、孔明は後主劉禅に「前出師表^注」を奏上しました。

時に227年で、以降231年に亘って4回遠征軍を出しました。一部の兵を駐屯(屯田)させました。孔明は兵士たちの健康を考えて、春一番に芽吹くダイコンの仲間の野菜の種を持たせ、屯田地で播種・栽培して兵士の食糧にしました。

この故事に因んで、後世の人がこの野菜を「諸葛菜」と呼ぶようになりました。実際は写真に見る植物ではなく、今、私たちが食べている「かぶ」だったという話もあります。4回目の遠征の時、孔明は五丈原で病を得て死にます。死に際して「私の死を知れば、敵将・司馬仲達^{しばちゆうたつ}は一気に襲いかかってくる。私の屍は生きているがごとく馬車に乗せて撤退するように」と遺言しました。孔明の死を知った仲達は一気に襲い掛かりました。前を行く馬車を見ると孔明はしゃんと座しているではないか。「囚られたか」仲達は踵を返して退散しました。この故事によって、「死せる孔明、生ける仲達を走らす」の成句を残しました。

(「饅頭」の故事はWikipediaなど参考にしました)

■注

前出師表(すいしのひょう): 前出師の表臣下が出陣する際に君主に奉る文書。特に断らない限り諸葛亮の「出師表」を指す。(Wikipediaより)



成都武侯祠前の「前出師表」碑。人物はたまたま前に立ってしまった中国の人で本稿と直接関係ありません。

(2017年6月20日)